

## 第7回マイタウンバス南部線雄和地域運行協議会事要旨

- 会 長            これより議事に入る。  
                  議事1 利用状況についてと、議事2 利用促進について、一括して事務局から説明をお願いします。
- 事 務 局        (議案第1号の内容を説明)
- 会 長            事務局からの説明について、何か質問、意見等あるか。
- 委 員            要望の中で冬の遅れとあったが、実際に遅れたことはあるのか。遅れが発生しているならば時刻を早める必要があるのではないか。
- 委 員            基本的に遅れることはないが、パンク等の車両故障や、ふきだまりなどによる運行不能といった突発的な要因による場合はやむを得ず遅れることはある。時刻を早める必要があるなら、比較的容易に対応することはできると思う。
- 委 員            あまり早くなっても困る。
- 委 員            現在、定刻では四ツ小屋駅での乗り継ぎ時間が20分ある。利用する立場から言うと、20分の待ち時間というのはかなり長い。特に冬場であれば待つのはつらい。さらに早くすると、利用している高校生がかわいそうである。現状で遅れないならば早める必要はないと思う。
- 事 務 局        風雨をしのげる上屋とあるが、四ツ小屋駅には待合所があるのではないか。
- 事 務 局        要望にあるのは「山崎」のバス停のことである。
- 委 員            本バス停がある場所は、待合所を設置するスペースはなかったと思う。
- 委 員            すべてのバス停に待合所があるわけでもなく、設置するスペースも無いということであれば、やむを得ないのではないか
- 会 長            以前、大正寺のAコープ前にバス停を移せないかという要望があったが可能か。Aコープ前は雨風をしのげ、ベンチもある。
- 委 員            利用者全ての要望であれば、移すことはできると思うが、Aコープ前を通ると、新波の町中をバスが通らなくなる。萱ヶ沢などから新波

の診療所に来る人にとっては、かえって不便になるので難しいと思う。

市では、雄和のバス路線維持について、どの程度負担できるのか。以前は、経費の半分までは負担すると聞いていたが、現在の利用状況では、経費の1割程度の収入しかなく、収支の基本線をどう考えているのか。

委員 市は、財政難に直面しているが、路線バスは市民の足として維持していかなければならないと考えている。一方、この状況が継続した場合は、定時定路運行は困難となり、予約式も検討しなければならない。最近では、地域の足は自分たちで守るという考えのもと、地域が主体となって運行している例もある。いずれにしても、将来に向けて、利便性が高く、少しでも利用者が増えるようにしていきたい。

会長 私たちも利用促進について検討してきたが、問題なのは、スクールバスの運行である。中学校が統合された際、スクールバスを出さないと統合しないというのが条件だったため、簡単にスクールバスを廃止できない。マイ・タウンバスの利用者を増やすためには、スクールバスを廃止し、生徒が乗るようにすることだと思うが可能か。

委員 運行事業者として、極力経費をかけないよう努力しているが、運送収入が減った一番の要因は、高齢者コインバス事業の影響である。これまで500～600円の運送収入があったのが、100円になったため、補助金収入はあるが、その差を埋めるほどではない。

現在、雄和振興公社では温泉への無料送迎バスを運行しており、以前は月一回だったが、現在は奇数の週に雄和全域から集めているため、一回あたり50～60人の利用者が減となっている。

経費についてもタイヤのローテーションを頻繁に行うなど努力はしているが、南部線は走行距離が長く、また、燃料費も高騰しており、どうしても経費がかかる。予約式の路線においては、可能な限り予約なしでも乗車できるようにしたり、傘の貸し出し等のサービスは行っているが、利用者数の増加には至っていない。

雄和地区は戸米川小学校が課外授業で、川添小学校も臨時便を出すほど利用されている。今後、小学校の統廃合の話が出た場合、スクールバスの代わりに生徒・児童の無料パスを要望してもらえれば、マイタウンバスの利用者増につながると思う。

委員 今後、平成28年の小学校統合に向け、各地区で説明会を行った際、スクールバスの話が出てくると思う。教育委員会との兼ね合いもあるが今後の課題として検討していただきたい。

委員 同様の話が河辺でも出ていた。雄和地区は前町長の方針で一中学校一

小学校という構想を進めていたが、市町合併で一時中断している状況である。福祉バスやスクールバスの協調については、すぐにとは行かないが検討させてほしい。

委員 利用状況を見ると、Aコース以外はコインバス利用者が大半を占めており、今後さらに少子高齢化が進むと、Aコースも同様になる。正規の運賃を払って乗る人はさらに少なくなり、ますます赤字が増加していくことになる。

委員 行政がコインバスを行うのは、収支という観点ではなく、赤字でも高齢者の足を確保するということであり、コインバスの運行と収支を一体として考えるものではない。

委員 今後さらに高齢化が進めば、正規の乗車運賃を払う人が少なくなり市の負担が増える。福祉にしても同じ税金から支出されているため、全体で見えていかなければならない。

委員 普通に考えると、利用者が少なければスクールバスとマイタウンバスを一緒にすればいいことになる。大都会では児童生徒と一般利用者を同乗させると危険であるといった問題から、分けているようである。雄和地区では、大正寺からはスクールバスに乗れるが、隣の戸米川からはバスが空いていても乗ることができないなどの課題がある。

委員 先ほど申したとおり、文部科学省の補助金でバスを購入すると、そういった問題が起こることになる。そのため、バスを購入する前に、マイタウンバスを利用して無料で通学できるよう要望してもらいたい。

会長 それについては、交通政策課でも検討するということでしたので、次の要望2および3について詳しく議論していきたい。

委員 要望2について、私は地元であるので、定時定路となれば助かるが、予約式に変更したときからこの協議会に参加しており、時間的に余分なところを走りすぎることによって短縮したものである。時間および経費の問題もあり、戻すことはできない。

事務局 少々補足する。この要望者に対しては、以前の経緯を説明し、バスが走っていないわけではなく、予約すれば乗車可能である旨を伝えている。

委員 河辺の協議会でも話が合ったが、予約の電話に抵抗があるという人がおり、運行业者側でだいぶ工夫をしてくれているようなので、その

内容について説明をお願いしたい。

委員 まず、南部線の予約式運行は河辺のBコースが始まりである。利用者が1時間前までに予約すると、運行事業者から出発30分前までに、詳細な時間をお知らせする電話が入る。その間、利用者は家で待機する必要があるが、これが大変だと言われていた。雄和地区では、この問題を少しでも解消するため、バス停毎に時間を決めている。1人だと恥ずかしいという話もあったが、それでもかまわないのでどんどん利用してほしい。

現在は、一度予約した事がある人であれば、電話番号で住所や利用バス停が登録されており、乗りたい時刻だけ伝えればよいシステムになっている。

委員 本協議会に今回からはじめて参加したが、この場で時間帯や本数などすべてを決定するのか。

委員 案として出して頂き、その後、運輸支局や競合が有る場合は中央交通との協議を行う事になる。即時決定とはならないが、皆さんの意見を聞くための場として開催している。

委員 この協議の内容がどこまで反映されるかを知りたい。

委員 約束することはできない。

事務局 この場を出して頂いた意見を基に、経路やダイヤを検討し、さらに協議し、成案を作っていくことになる。

委員 マイタウンバスはよく見るが、人が乗っているところをあまり見たことがない。無駄のような気がしている。

委員 皆さんから利用して頂いているので無駄ということはないが、空で走っているときもある。農繁期に利用率が落ちる傾向にある。一方、旧雄和町民だけでなく、旧秋田市内からダリヤ園に行きたいなどという問い合わせが来ている。

会長 次に、要望3について議論したい。

事務局 これは、雄和地域とは直接関係ないが、四ツ小屋駅からイオンに向かう途中の四ツ小屋末戸松本地域にある中央交通のバス停のことで、この地域の人がマイタウンバスにも乗れるようにしてほしいというものである。

会 長 だれでも乗れるようできないか。

事 務 局 中央交通が運行している区間であるため、協議が必要になる。

会 長 マイタウンバスに移行となり利便性が低下したという話が広まってきているのも事実である。これまで、マイタウンバスを利用してもらえよう様々な検討をしてきたが、利用したことがない人たちに対しても、利便性が上がったことを広めていくことが重要である。できるできないは別にして、何かあれば要望してもらい、関心を持ってもらうという雰囲気作りが地域で重要である。

委 員 中央交通がサービスセンターまで運行している便の利用率を教えてください。

事 務 局 資料を持ち合わせていないが、確か、1000万円程度の赤字だったと思う。

委 員 時々利用するが、サービスセンターから南の人は乗り継ぎが悪いためあまり利用しない。しかし、サービスセンターから北の人は、乗換なしで秋田駅西口まで行けるのでかなり利用している様である。一方で、有楽町などを通らないため、もう使わないという人もいる。

事 務 局 このバスの目的は、雄和の人たちを秋田駅西口まで連れて行くというものである。

委 員 先ほど会長から、地域で広めていくことが大事という発言があったが、地域の人たちは誰が委員であるのかもわかっていない。広報などで委員を紹介し、マイタウンバスのことは何でも聞いてもらえるような環境作りに向けて、委員をPRをすることが必要ではないか。

委 員 地域の人たちに対し、バス時刻などを全戸配布するのもいいかと思う。今後はPRの方法についても検討していく。

会 長 様々な意見がでたが、市の検討を踏まえ、取り組んでいきたいと思う。ほかに意見がなければこれで議事を終了する。